

## 1996年度上半期山行報告書

### 目次

ゴールデンウィーク山行	槍ヶ岳北鎌尾根	5/3～5
新人歓迎山行	雲取山	5/25～26
雪上訓練	北岳大樺沢	6/1～2
個人山行	逆川（奥多摩）	6/29
日本山岳会谷川岳合宿	谷川岳	6/29～30
プレ夏合宿	奥穂～西穂	7/13～14
プレ夏合宿	海沢（奥多摩）	7/21
夏合宿	剣岳～奥穂	8/1～10
文登研リーダー研修会	剣沢	8/24～30
個人山行	北岳バットレス四尾根	9/15～16
個人山行	尾瀬・燧ヶ岳、至仏山	9/27～29
個人山行	九州祖母山系川上本谷	9/22
ゲレンデ		

### 部員

西井薫（商2）  
宗像充（法2）  
岩浪靖（商1）  
立木啓太（法1）

## 1. ゴールデンウィーク山行（槍ヶ岳北鎌尾根） 宗像、古田 OB、古瀬 OB、淵沢 OG

5/3（晴れ） 高瀬ダム発 6:50～8:10 無名小屋 8:25～9:30 湯俣～千天出合～12:30 尾根取り付き～1:30 木登りピッチ上部～2:30 2100m付近 TS  
急行アルプスにて信濃大町へ。大町ではベルニナ山岳会のパーティーで北鎌にやってきた OB の田形さんに会う。高瀬ダムまでタクシーで入り、そこから林道をてくてくと歩き登山道に入る。連休中だけあってほかのパーティーも多

い。名無小屋で登山靴にはきかえ、残雪を踏みしめて湯俣につく。湯俣からは川沿いのアップダウンがつづき、ときどき切れていたり、吊り橋が傾いていたりするので少し緊張する。心配していた渡渉は流れが雪に埋まって問題なし。木登りピッチも無難に通過するが、ここまでの登りはかなり疲れる。数カ所あるテントサイトをやり過ごし P2 と P3 のあいだにある小ピークにテントを張る。

5/4 (曇りときどき雪) 3:00 起床 4:30 発→8:20 P78:35 独標 10:00~11:00 2873 峰 11:15~12:25 北鎌平下コル 12:35~12:45 北鎌平→1:45 槍ヶ岳 2:00~2:30 肩 2:45~3:40 赤沢岩小屋 TS

雪山というのに夜もあつたかく、山でこんなにぐっすり眠ったのは久しぶりだ。アイゼンをつけ、まだ薄暗いなかを出発。1 時間ほどしてアイゼンを外し、2500m 付近で再びアイゼンをつける。ピークをいくつかトラバースしつつ巻いて行くので先の状態がわかりにくく、アイゼンの着脱はいいかげんにできない。それでもトレースはしっかりついているので技術というよりも体力がものをいうのだが、歩幅の狭い淵沢 OG には足跡の歩幅が合わなくて、かなりこたえていたようだ。途中 P6 の下りで前のパーティーが懸垂をしていたが、クライムダウンで下り、独標の上りも問題なく槍の穂先をのぞむ。独標のつぎのピークの下りで、ベルニナ山岳に続いて左のほうに懸垂で下ったが、ピーク上をそのまま越えるか、右を巻けばザイルなしで行けそうだった（後のパーティーは右を巻いていた）。2873 峰からしばらく歩いた稜線上の上りで先頭を歩いていた古瀬 OB が落石を起し、ラグビーボール大の石が 2、3 個ごろごろとおちてきて、そのうち一つが後ろを歩いていた宗像の右脚のすねに当たる。そのあと残りの不安定な石を合図した後、故意に落とし、幸い宗像の脚も擦り傷で済み、歩行に支障がなかったのでそのまま進む。それでもやはり岩の不安定さは残り、石を落としそうで緊張する。それにしても谷底に落ちていく石の音が周りの山々に響く音は自分がそのうちの一つに当たったのかと思うと恐ろしかった。槍の穂先への上りでは雪面を爪先をきかせて慎重に登ったが、ザイルなしではかなり緊張した。にぎやかな槍の穂先を後にして、槍沢を尻セードで下り、へとへとになって赤沢岩小屋にたどり着く。

5/5 (雪のち雨) 5:00 起床 6:30 出発→8:15 横尾 8:25~11:10 上高地バス停

一晩中なだれの音が響き渡り、テントに積もった雪を先輩方が内側からバンバンとたたいて払い落としていらしたが、ぐっすり眠らさせていただいた。デブリの残る槍沢を早々に退散し、遠くのなだれの音を聞きながら雨の中を上高地につく。

今回の山行は私が案を出し、OBの方々に連れて行っていただくという形になったが、天気もよく雪の北鎌尾根を無難にこなすことができ満足だった。北鎌尾根は条件がよかったからであろうが、私には技術もさることながら体力が重要だったと思う。疲れた後にたどり着く槍の穂先は感無量だ。

文責・宗像

## 2. 新歓合宿 5/25～26 三峰～雲取山 西井、宗像、立木、松江

三峯神社から出発、4人の話題は行きしなのバスの中で乗り合わせた広鏝の麦わら帽子のお姉さんのことだけである。どいつも何も気づいてない顔をしておきながら同じ人を見ていたらしい。朝あまりにもゆっくりしたために、登山開始が遅れ予定の雲取山荘まで行けそうにないので、途中の白岩小屋にキャンプを張る。その日はみんなでビールを飲んですぐ寝る。

次の日、2時間程度で雲取山の頂上に着き1時間ほどでくつろいで鴨沢に下りる。

文責・西井

## 3. 雪上訓練（南ア・大樺沢） 西井、宗像、岩浪、立木

### 6/1 夜叉神峠～広河原～白根御池（雪訓終了 16:00）

前日にタクシーで夜叉神峠まで入る。工事の関係で広河原まで入らない。朝、晴れ気温は低い。広河原までの林道歩きで早くも立木、少々バテる。大樺沢に入る。雪は例年より多いそうだ。雪溪上部をキックステップで登る。右手に入る道は崩れていて見つけるのに少々手間取る。白根御池までは平坦な道であるが道自体が崩れており赤布やテープを頼り、倒木の上など歩きながらようやくの思いで白根御池に達する。避難小屋にはもう別のパーティーがいたが、ザックを置いてすぐに雪訓開始。キックステップやトラバース、確保技術、ピッケルストップなど一通り教わる。小屋に戻るが立木は疲れてぐったり。すぐ寝る。

6/2 白根御池 11:00～広河原～夜叉神峠

午前中、再び雪訓。小屋にいたもう一つのパーティーは北岳に行くようで雪溪を登っていった。帰りも広河原から歩く。宗像さんは「北岳来ただけや」というダジャレが気に入ったらしく何度も繰り返していた。

文責・立木

4. 個人山行 (逆川) 西井、岩浪、立木、古瀬 OB

6/29 川乗橋 9:30～逆川出合 10:20～川乗山山頂 15:20

1 年にとっては初めての沢であり立木はなぜか山靴をはいてきてしまい変な目で見られる。天気がよく快適な沢登りができそう。3m滝では慎重に行けば問題なさそうだったが、一応ザイルを出してもらおう。ザイルワークの練習にもなった。やはり、ただついていくだけの 1 年生 2 人とは違い古瀬 OB は積極的に難しいルートにトライしていた。10mほどの大滝でもザイルを出してもらったが岩浪はノーザイルで登ってしまった。最後にいやらしいやぶこぎがあったが、全体的には快適な沢であったと思う。

文責・立木

5. 日本山岳会谷川岳合宿・確保技術講習会 宗像

6/29 (雨) 5:10 土合発～5:30 西黒尾根登山口～9:15 谷川岳山頂 9:25～12:05 林道～1:30 虹芝寮

雨の中を出発。一人できたので自分のペースをつかめずに飛ばしていたら、えらいくたびれる。今年は残雪が多かったらしく、山頂直下にはまだ雪溪が残っている。予定では、蓬峠まで縦走して虹芝寮につくつもりだったが、雨が降って気分は憂鬱だし、おまけに、地図を間違えて持ってきたのでさっさと引き返す。巖剛新道を下ったが、途中でクラストした雪溪が沢に詰まっていた、ステップカッティングをしてわたる。下から登ってきた二人組はピッケルがなくて困っていた。ピッケルを持ってて正解だった。

虹芝寮では日ごろ交流のない他大学の人と一緒に飲んで話をし、大変よかったと思う。どこの大学も部員不足に悩んでいるのは同じだった。

6/30 (曇り) 確保技術講習会

林道横の岩場でシットハーネスの使用法、アンカーの取り方、確保器具の説明、懸垂下降の方法などなど確保技術の基礎と理論を教えてもらったが、それさえもよく理解していなかったわたしとしては大変有意義だった。

他大学の交流のない状態では山に対する考え方も萎縮しがちであるのでこういう機会をもっと積極的に利用して外に出て刺激を受けてくるべきだと思う。  
文責・宗像

## 6. プレ夏合宿（奥穂～西穂） 西井、宗像、岩浪、立木

7/13（晴れ） 6:25 上高地バス停発～9:00 横尾 9:20～10:25 本谷橋 10:40～13:00 涸沢ヒュッテ 13:25～17:20 穂高岳山荘

快晴の中を出発。朝はやくて人の少ない上高地は気分がいい。ところどころ水に流された横尾までの林道を快適に歩く。横尾で登山靴にはきかえ、傾いた横尾大橋を渡る。川沿いの道は流されていたのか通れなくなっていた。この辺りから最後に歩いていた西井が遅れ始めるが、リーダーなので大丈夫だという前提で一年を連れて先を歩いた。本谷橋で聞くと、3人が見えなくなって探したという。悪いことをした。もう7月だというのに、涸沢ヒュッテの下には雪渓が大量に残っており、キックステップで登って行く。この残雪で白出乗越のテン場は埋まっているのではないかと思い、穂高岳山荘に電話して確かめる。結局ばてた西井がもって上がったスイカはわたしが持つことになり、雪渓が一面に広がった涸沢をゆっくり上がる。いっぺんにスイカと水の重さ分だけ増えて、ステップを刻む足取りが重い。途中、急傾斜の雪渓の横断があり、ピッケルをもっていないので緊張する。途中で天気図をつけ、小屋のすぐ下まで雪渓で埋まっている白出乗越に到着。寒くてせっかくボッカ訓練でもって上がったビールが全然うまくない。そのかわり隣のテントの人にいただいた飛騨牛は非常にデリシャスであった。

7/14（霧時々雨） 4:45 起床 6:00 発～6:50 奥穂山頂 7:25～8:25 ロバの耳 8:35～8:55 ジャンダルム 9:00～10:35 天狗のコル 10:40～11:55 間ノ岳 12:07～13:45 西穂 15:30 西穂山荘 15:45～17:45 上高地

宗像と立木は時計を持っていなかったため、寝過ぎすのではないかと心配したが、予想通りだった。昨日とうってかわって朝からガスっている。奥穂の山

頂でスイカ割りをしたが、寒くて 4 人で食べられず、くる人くる人に配ってあるいた。ガスってはいたが降るようにも見えず、天狗のコルからも下りられるのだし、とと思って予定通り出発。ウマの背はナイフリッジに緊張するのだが、ガスっているので高度感はない。ロバの耳は鎖場を右から入り、左に抜け、ジャンダルムは右から巻く。いずれもガスっているので何の感慨も沸かない。天狗のコルにつくと、雪溪がコルまで詰まって下り、かなりの急斜面のうえ、ガスのため先がどうなっているのかも分からない。ピッケルを忘れてきたので下る自信はない。見通しの甘さを実感させられた。時間的にはまだ余裕があったので予定通り西穂に向かう。間ノ岳の下りは、ガレガレで立木が潰け物石大の石を落としひやりとする。間ノ岳の次のピークの上りで宗像がルートを右にそれ、スタンスにしていた石が崩れ、2mほど滑り落ちる。幸い、かすり傷なのでそのまま進む。西穂までは小ピークが続き、技術的に問題は無いのだが、通り雨で岩が濡れて滑ったり、落石を起こしそうで、神経を使う。西穂を過ぎると雷が鳴りだし、かけるようにして西穂山荘に着く。上高地までは文字通り駆け下りて、くたくたになって上高地にたどり着く。運良くホテルの車にひろってもらい、そのうえタクシー運賃も安くしてもらって、どうにか「あずさ」にまにあった。上高地温泉ホテルのおじさんありがとう。

文責・宗像

## 7. プレ夏合宿 奥多摩・海沢 西井、宗像、立木、岩浪

7/21 奥多摩駅 8:30～天地沢 9:00～井戸沢 10:15～大滝 11:25～12:15 ワサビ田 12:45～白丸 14:05

約束の時間を 1 時間間違えてしまい、JR 御岳駅から青い顔してタクシーで JR 奥多摩駅まで飛ばす。奥多摩駅で 1 時間早く来てしまったことに気づく。タクシー料金 5000 円がとても悔しい。ともかく、天地沢出合から出発。初めのうちは適度に淵も多く、谷も深く、清々しい気分で登る。途中の小滝で岩浪が時計を落とす。探したがみつからない。岩浪は来年も来て探すと言ったが、恐らく誰も付き合ってはくれないだろう。ゴーロの前で上から人が見下ろしているのに気づき、近くに結構人がいるのに気づく。ゴーロから大滝まではハイカーがたむろしていて、ハーネスにヘルメットの我がパーティーは浮いている。大滝は常道どおりに左を巻き、ワサビ田に到着。白丸まで下りる。

文責・西井

## 8. 夏合宿 8/2～10 室堂～上高地

西井、宗像、岩浪、立木

8/2 晴 室堂 9:00～乗越 10:00～剣御前小屋 12:00～剣沢小屋 13:00

室堂に着くなり西井が磁石がないと言って騒ぎ出す。結局、西井は磁石のないまま 30 分後に出発する（磁石は次の日で見つかりませんでした）。初っ端からえらく反省する。最初は雷鳥沢を登っていこうと思っていたが、人が多いので、ちょっと遠回りをして、大日岳の稜線まで上って剣沢小屋に向かう。夕食のすき焼きに糸こんにゃくがないのがちょっと寂しい。

8/3 晴 剣沢小屋 4:50～剣山荘 5:10～一服剣 6:00～前剣 7:15～9:00 剣岳 10:00～一服剣 11:50～剣沢小屋 13:00

まだ雪がついているということで、どんなものかと少し気にかけていたが、全く問題なく拍子抜けする。剣山荘を過ぎて少し登った辺りで、岩浪が腹が痛いというので剣山荘までトイレに走らせ、他の者は道の途中で 20 分ほど待ち、再び出発する。一服剣を過ぎた辺りで、今度は立木が腹痛を訴える。今さら小屋に戻るわけにもいかず、治まるのを待って出発することにしたが、治まらないので岩陰で済ませる。宗像の話では立木の姿は一服剣から丸見えだったらしい。これ以後は順調に進み頂上で 1 時間休み下る。

8/4 雨・霧・風強 剣沢小屋 5:20～別山分岐 6:10～富士の折立 7:45～雄山 8:15～一ノ越山荘 8:55～獅子岳 11:20～ザラ峠 12:25～五色ヶ原 13:25

朝のうちは曇ってはいるが霧も薄く、まあそのうち晴れるかなと期待しながら出発する。別山分岐まで登ると風・霧も強いので合羽を着るために休憩を早めにとる。雄山の頂上へは金がかかるとのこと、もったいないのでやめにする。一ノ越山荘までの下りはひっきりなしの上りの登山客の行列がとても鬱陶しい。龍王岳の下りでは黒部ダムの湖面が見える。まだ霧の濃い五色ヶ原にテントを張る。張り終わった頃には青空が広がっていた。

8/5 霧後晴後霧 五色ヶ原 6:00～鳶山 7:05～越中沢岳 10:40～スゴ乗越小屋  
12:40

朝から霧が濃いのと、加えて昨夜隣のテントが遅くまで騒いでいたのとで皆  
機嫌が悪い。越中沢岳のゆるい上りを登る頃には晴れ間が広がる。夕方、面前  
の赤牛岳が夕焼けに染まってとても美しい。

8/6 晴 スゴ乗越小屋 5:15～間山 6:40～北薬師岳 8:10～薬師岳 9:10～薬師峠  
10:20

久しぶりに日の出を見る。剣岳以後、1年生は出発前に長便をするので、出発  
が遅れ、上級生は不機嫌である。北薬師岳からは左手にカールが連続しており、  
また稜線の道も狭いため、なかなか休憩を取ることができない。薬師岳からは  
人も増え、薬師峠には 10 時半に着いてしまう。今までもあまりきつい山行をし  
てないので赤木沢出合まで行ってもいいかとも思ったが、明日、黒部五郎小屋  
まで 10 時間ぐらい行動するのもいいかなと思い、この日は皆でゴロゴロする。

8/7 晴時々霧 薬師峠 5:00～7:10 薬師沢小屋 7:40～赤木沢出合 9:20～13:10  
中俣乗越 13:35～黒部五郎岳 15:05～黒部五郎小屋 16:50 (後発 17:20)

時間がかかりそうなので薬師沢小屋までは早めに進む。沢を登っている間は  
ずっと天気がよく、赤木沢の大滝まで和気あいあいと進む。滝を登った所で先  
頭の西井が全く何でもないところで迷い、10 分ほどガサガサやる。岩浪はその  
途中で滑り手を擦りむき、また霧も出てきて、和気あいあいムードは吹き飛ん  
でしまい稜線までむっつりと登る。黒部五郎岳までは霧も濃く、面白くなさそ  
うな顔を 4 つ並べて、やはりむっつり登る。黒部五郎岳からは、途中で天気図  
をつける組と、先に小屋へ行って飯を作る組に分かれて下る。

8/8 晴後霧 黒部五郎小屋 5:10～三俣蓮華岳 7:30～8:55 双六小屋 9:20～硫黄  
乗越 10:10～ナマ沢乗越 12:30～槍の肩 13:40

双六小屋から槍の肩まで 6 時間かかるということなので、あんまり遅いよう  
なら双六で泊まるかな、と怠け心を起こしていたのだが、別段遅いこともない  
ので、大目に休んでそのまま槍まで行くことにする。結構バテバテになりなが  
ら、槍の肩まで辿り着くと、肩にはまだテン場があるとのこと、殺生まで下り  
なくてすんだ、とホッとす。

8/9 晴後霧 槍の肩 5:10～7:15 南岳小屋 7:35～A 沢のコル 10:30～北穂高岳  
11:40～白出乗越 13:35

槍の肩から日の出を見た後出発。南岳小屋からは大切戸、プレ夏合宿で奥穂～西穂を経験しているせいか 1 年生も危なげなく慣れた調子でひよいひよいと進む。A 沢のコルからの飛騨泣きは我々のすぐ前に行く団体が時々石を落としているようなので多めに休憩をとり、前との間を開ける。自分たちも石を落とすかもしれないので、後から来た 2 人のおじさんが先に出るのを待ったが、動きそうにないので先に動き始めると、おじさんたちもすぐ動き始めた。同じ事を考えていたらしい。北穂高山荘に涸沢岳に行く道が少し欠けているという張り紙が貼ってあったので山荘の人に聞いてみたが、実際行けるものなのかどうか、イマイチよく分からないので日和っていると、下ってきた人が全然問題ないというので安心して白出乗越に向かう。途中から雨も降り始め、霧もあり、どれが涸沢槍で、どれがドームなのかさっぱり分からなかった。乗越に着き、飯を食った後あたりから晴れはじめ、ジャンダルムから常念まで一望でき景色は最高である。小屋泊まりのおじさんのビールを見て、生唾を飲み込む。

8/10 晴 白出乗越 5:10～奥穂高岳 6:00～前穂高岳 7:50～岳沢ヒュッテ  
10:00～上高地 11:50

穂高岳ヒュッテを出るとき、どこかのテレビ局がきていた。奥穂高岳はプレ夏のときも登ったのだが、その時はガスっていたので標識しか見えなかった。今回は天気もよくガスもないので、奥穂がよく見える。しかし人が多い。奥穂の頂上の標識の所にカメラだけが並んでいるのにはさすがに閉口した。紀美子平に荷物を置き、前穂に登る。紀美子平はザックで一杯、前穂の頂上は人で一杯、なんとなく興ざめである。岳沢まで無理やり一本で下り、その後上高地までは各自が各自のペースで下りることにする。

文責・西井

## 8. 文部省登山研修所夏山リーダー研修会 剣沢 宗像

8/24 落下率の講習を聞いた後、午後からタイヤを使っての確保訓練。めったにできないことなので大変参考になった。金沢大学医学部の人と学芸大学の人と一緒に班になり、夜、入山中の食料計画を考える。

8/25 午前中、大学山岳部における諸問題という講義を聴く。身につまされる話である。午後から体育館の人工壁にてフリークライミングの練習。初めての人工壁だがかなりおもしろい。バランス感覚を身につけるには最適だと思うので、お金の許す限り利用したいと思う。我々の班の担当は流暢な関西弁を話す内山先生だ。

8/26 霧 9:25 室堂発～11:40 別山乗越～12:00 剣沢

いきなり内山先生をおいて出発してしまい、隣の班の二宮先生にしかられる。テントをたてた後、さっそく前進基地の隣のガレ場でハーケン打ちの練習。こんなにまとめてハーケンを打つ練習ができるのはそんなにはないだろう。その後、前進基地にて保健医療の講習を聴く。

8/27 雨

朝から雨がたたきつけ、今日は前進基地にて登攀用具やザイルの結び方などの説明を内山先生から聞く。知らないことが多くてなんでも質問する。

8/28 雨

今日も雨で一昨日と同じガレ場でチョックの使い方を練習する。雨の中なのでとにかく寒い。この調子では本番の岩など行けそうにない。危急時対策の研究協議あり。この部の欠点がいよいよ見えてくる。

8/29 霧のち雨 5:10 剣沢発～5:45 別山の岩場 1:30～1:50 剣沢

とにかく別山の岩場に行く。アンカーを作る練習や自分の打ったハーケンで懸垂下降の練習をする。今日も岩を登ることはできなかった。途中からまたもや雨が降りだしとにかく寒い。前進基地に帰って岩登りの研究協議。今日予定されていたビバーク訓練は雨のため中止になった。

8/30 曇り

別山の岩場を実際に登った後、早々と室堂に向かう。時間ぎりぎりに室堂につき、雨にたたられたリーダー研修会がやっと終わった。

とにかく雨、雨、雨。雨のために実際の岩に行けなかったことは本当に残念

だった。それでも、本を読んだだけではよく分からない知識や技術に触れられたことはほとんど技術的には0に近かった私にとってはよい機会だった。これからももっと積極的に利用すべきだと思う。

文責・宗像

## 10. 個人山行 北岳バットレス四尾根

宗像、田形 OB、古瀬 OB、古田 OB、前神 OB

9/15 晴後霧 4:00 起床 4:50 広河原発～6:40 二股 7:10～8:10 d ガリー取り付き 8:45～11:10 四尾根取り付き 12:00～2:25 第一のゴル～6:00 北岳山頂～白根山荘～7:30 吊尾根分岐～9:00 二股～10:00 白根御池

前日は雨だったので一日遅らせての入山。二股で一般道から上る前神さんと分かれ、バットレスに向かう。取り付きまで来て見上げると、すでにうじゃうじゃと取り付いていて人だらけだ。d ガリー取り付きで準備していると上からこぶし大の石が降ってきて恐ろしい。登攀中ずっと落石に脅かされることになった。田形・古瀬、古田・宗像の組み合わせで、横断バンドまでは順調に登る。ところが、四尾根の取り付きまで来たところすでに順番待ちになっている。結局、1時間近く待たされたうえで登り始めたが、その後も順番待ちが続き、スタカットの意味がまったくない。5mの垂壁は問題ない。マッチ箱はルート図にはクライムダウンかアップザイレンで下りると書いているが、クライムダウンは無理だろう。とにかく前が進まないので時間がかかるし、途中からガスが出てきて寒くなり最悪である。結局、山頂には6:00につき、そこから前神さんを迎えに白根山荘まで行ったが、こちらの手違いで前神さんは先に下りたらしい。ライトをつけて八本歯を下るとき、バットレスを見やるとライトの明かりがまだいくつも見える。多分、ビバークになることだろう。下りで宗像がバテバテになってしまい、情けない。満天の星空をくっきりと貫くミルキーウェイがただただ恨めしく見える。白根御池小屋にやっとのことをつくると、前神さんがテントを張って待っていてくださったのはありがたかった。

8/16 晴 5:30 起床 7:45 発～8:45 広河原

予定ではピラミッドフェースに行くはずだったが、昨日の疲れから誰も早く起きることができず、結局下山。連休にバットレスなど来るものではない。

文責・宗像

### 1 1. 尾瀬 岩浪、立木

9/27 大清水 11:15～尾瀬沼 13:05～沼尻 14:10～弥四郎小屋 15:25

一ノ瀬で一本とり尾瀬沼に出る。初秋ではあるが、結構、風が冷たく人影もまばらである。時間の関係で尾瀬沼ヒュッテの方へは行かずに直接、沼尻まで行った。沼尻から下田代十字路までの段小屋坂は嫌な道が続く。まだ時間があったので竜宮小屋まで散歩する。この時季、ミズバショウは茶色くなって見るも無惨に枯れてしまっている。岩浪が、なぜお化けミズバショウが発生するか、得意気に説明するのを聞きつつ小屋に戻る。

9/28 弥四郎小屋 5:30～温泉小屋分岐 7:25～燧頂上(紫安崑) 7:50～分岐 8:25  
～弥四郎小屋 10:00～ヨッピー橋～三又～竜宮小屋～弥四郎小屋 14:40

まだ日が昇らず薄暗く幻想的な尾瀬ヶ原を出発する。燧の登りから見下ろした尾瀬ヶ原には雲海がかかっていた。燧頂上には誰もおらず、輝く尾瀬沼や上州の山を見てしばしボーッとする。休憩の時間について少しもめる。下りでは無数のおばちゃんたちとすれ違う。岩浪はやたらと愛想がいい。弥四郎小屋に着くとその日は土曜日だったので観光客がたくさん押しかけて来ていた。尾瀬ヶ原散策に向かう。“ナチュラリスト”を自称する岩浪は、木道を踏み外して歩いたおばさんを敵意に満ちた目で見ていた。

9/29 弥四郎小屋 5:00～山の鼻 6:30～鳩待峠 7:20～至仏山頂 9:50～鳩待峠  
12:20

朝、尾瀬ヶ原の木道にはカメラをかまえた人がいたる所にいた。山の鼻から鳩待峠までの道では多くの団体旅行客とすれ違いうんざりする。至仏への登りでは、にせピークが多くてイライラした。至仏の山頂は人でごったがえしていたが、富士山や谷川岳がよく見えた。

文責・立木

### 1 2. 個人山行 祖母山系・奥岳川川上本谷 宗像

9/22 曇り 6:00尾平発～7:20二股～7:35ヤセオ谷出合～8:00烏帽子谷出合  
～8:00スリウス谷出合 8:15～9:30 10m滝～10:30縦走路～10:45障子岳 10:55  
～11:30黒金山分岐～13:15尾平

朝のやわらかな光の中、ひとり溪の冷えた水の中に足を踏み入れる。だれもいない。

広いナメの上を細く滑る白い水が心地よい。支谷との出合には石が積んであり、迷うことはない。やがて廊下状になるが、右岸にところどころ巻き道がついている。雨が降っていないのか流れは細い。一カ所左岸を巻いたとき上に行き過ぎたようで岩が不安定で緊張する。上流はガレガレになった川床が続きうんざりする。14m滝のところは二股になっていて右のほうが滝らしかったので取り付いてみたが、またまた最上部で行き詰まり左のほうを逆行することにする。そのあとしばらくしてルンゼになり、落ち葉が詰まって滑るし、岩はぼろぼろとはげるし、時々足を滑らして緊張する。まったくうれしくない。ルンゼより早く尾根に出たほうがよかったように思う。縦走路に出ると縦走路に行くまでよりもヤブが激しい。知っていつつもうんざりする。うっかり源頭で水を汲み忘れ、喉がからからになって、さっさと黒金山尾根から下りる。ところが1:15に下りてきたのに、バスは休日なので5:30までない。しかもそのバスは途中までで駅まで行く接続が何もないというわけのわからん町営バスだ。しかたがないのでヒッチをしておばさん三人組に拾ってもらった。こんなにおばさんがありがたく思えたのは初めてだ。

文責・宗像

### 13. ゲレンデ

- 4/28 日和田 西井、宗像、古瀬 OB
- 6/15 日和田 西井、宗像、岩浪、立木
- 6/23 三つ峠 宗像、田形 OB、古田 OB
- 6?/6・7 つづら岩 宗像、立木
- 9/6 日和田 宗像、立木
- 9/8 越沢バットレス 宗像、田形 OB、古瀬 OB
- 9/12 日和田 宗像